Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-08-16

Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness: A Multicenter Randomized Controlled Trial

Mashimo, Izumi

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2021-03-25

(Date of Publication)
2022-03-01

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第8052号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1008052

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　保健学研究科リハビリテーション科学領域

専攻分野　脳機能・精神障害領域

氏　　名　真下　いずみ

論文題目（外国語の場合は，その和訳を（　）を付して併記すること.）

Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness: A Multicenter Randomized Controlled Trial
（重度精神障害者に対する生活行為向上マネジメントを用いた訪問作業療法の効果：多施設共同ランダム化比較試験）

論文内容の要旨（1,000字～2,000字でまとめること.）

背景：近年の日本では，統合失調症や気分障害をはじめとした重度精神疾患（Severe mental illnesses; SMI）患者の退院促進，地域定着が推進されている．彼らの地域生活継続には，『個人が通常の社会的役割を果たすための機能的能力』である社会機能の改善が必要である．社会機能には，日常生活活動，仕事，自律のための行為などの様々な生活行為が含まれている．

諸外国では，SMI患者の希望に焦点を当てた地域でのOTが，社会機能を経時的に改善したとする報告がある．その多くはランダム化比較試験を用いて検証されておらず，OTの社会機能改善効果は統計学的に確証されたとは言い難い．日本においては，精神科訪問看護チームに所属する作業療法士が，SMI患者の生活の場に訪問して作業療法（以下，訪問OT）を行っているが，その有効性は統計学的に検証されていない．

そこで本研究では，ランダム化比較臨床試験によって，SMI患者の希望する生活行為に焦点を当てた訪問OTの社会機能改善効果を検証した．SMI患者の希望する生活行為に焦点を当てるために，生活行為向上マネジメント（Management Tool for Daily Life Performance; MTDLP）を用いた．MTDLPは，SMI患者の希望する生活行為の明確化，その行為を促進/阻害する要因の評価，共同目標設定，プログラム立案，介入といった一連のOTプロセスを実践するマネジメント・ツールである．MTDLPを用いた訪問OTにより，作業療法士は実生活の場でSMI患者の希望する生活行為に焦点を当てて介入できるようになる．このことによってSMI患者の社会機能は改善すると考えられた．

目的：MTDLPを用いた訪問OT（介入群）と，MTDLPを用いない通常の訪問OT（対照群）を比較し，介入群の社会機能改善効果を明らかにすること．

方法：ICD-10診断基準で，F2圏（統合失調症，統合失調症型障害および妄想性障害），F3圏（気分〔感情〕障害）の診断を有する18～65歳のSMI患者で，訪問OTを利用中または利用予定の者を対象とした．日本の20の精神科訪問看護チームが研究に参加し，67人のSMI患者が研究参加に同意した．

参加者は，介入群と対照群にランダムに割り当てられ，4か月間，原則週に1回，1回当たり30分から1時間の訪問OTを利用した．介入群では，MTDLPシートを用いて作業療法士と参加者が共同目標を立案し，対照群では，作業療法士が参加者の地域生活継続に必要と想定した目標を設定した．介入期間中の症状悪化等により，1か月以上訪問OTを実施できなかった者は解析から除外した．

介入前後に，機能の全体的評定尺度（Global Assessment of Functioning; GAF）と社会機能評価尺度（Social Functioning Scale; SFS）を測定し，反復測定分散分析を行った．統計学的有意水準は5%未満とし，効果量の指標としてη^2_p（効果量小：$0.01 \leq \eta^2_p < 0.06$，効果量中：$0.06 \leq \eta^2_p < 0.14$，効果量大：$0.14 \leq \eta^2_p$）を算出した．

結果：参加者67人のうち，7人が除外基準に該当したため，60人を介入群（n=29）と対照群（n=31）にランダムに割り当てた．介入期間中に，介入群4人，対照群7人が研究からドロップアウトした．介入期間中のドロップアウト率は2群間で有意差はなかったが，介入期間中の入院率は，介入群が対照群よりも有意に低かった（介入群：1/28，対照群：7/31，$p = 0.037$；Fisher's exact test）．最終的な解析対象者数は，介入群25人，対照群24人であった．

MTDLPシートを用いた介入群では，40%の参加者が『働くこと』を希望し，仕事に関する共同目標が立案された．対照群はMTDLPシートを用いなかったため，共同目標は立案されなかった．反復測定分散分析の結果，介入群のGAFスコアは，対照群よりも大幅に改善し，強度の時間効果（$F(df=1,47)=17.79$，$p<0.001$，$\eta^2_p=0.28$）と中等度の時間と群の相互作用（$F(df=1,47)=5.92$，$p<0.019$，$\eta^2_p=0.11$）が認められた．SFS総点には，有意な介入効果は検出されなかった．ただし，SFS下位尺度の就労スコアは，介入群が対照群よりも大幅に改善し，中等度の時間と群の相互作用（$F(df=1,47)=4.66$，$p<0.036$，$\eta^2_p=0.09$）が認められた．

結論：介入群は対照群よりも，介入期間中の入院率が有意に低かったことから，MTDLPを用いた訪問OTは安全に実行可能であり，しかも入院率を低減させる効果があることが示された．また，反復測定分散分析の結果から，介入群は対照群よりもSMI患者の社会機能を改善することが明らかになった．特に，介入群のSFSの就労スコアの改善は，SMI患者が希望した生活行為である『働くこと』に対する介入効果を反映したと考えられた．

本研究から，MTDLPを用いた訪問OTは，SMI患者の社会機能を改善する効果があることが示唆された．

指導教員氏名：橋本　健志

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	真下　いずみ		
論文題目	Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness: A Multicenter Randomized Controlled Trial （重度精神障害者に対する生活行為向上マネジメントを用いた訪問作業療法の効果：多施設共同ランダム化比較試験）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	教授	橋本　健志
	副　査	教授	種村　留美
	副　査		印
	副　査		印

要　旨

統合失調症や気分障害をはじめとした重度精神疾患（Severe mental illnesses; SMI）患者の地域生活には，彼らの社会機能の改善が必要である．本研究では，生活行為向上マネジメント（Management Tool for Daily Life Performance; MTDLP）を用いることによって、SMI患者の希望する生活行為に焦点を当てた訪問OTを実施することが、SMI患者の社会機能をより改善するかについてランダム化比較臨床試験によって検証した．SMI患者参加者は、MTDLP群（n = 29）と対照群（n = 31）の2群にランダムに割り付けられ、両群には、週1回の訪問OTが4ヵ月間提供された。介入後、MTDLP群の機能全体的評定尺度（GAF）は対照群に比べて有意に改善した。社会機能尺度（SFS）の下位項目の就労項目は、MTDLP群では対照群に比べて有意に改善した。

本研究は、MTDLP群がSMI患者の社会的機能を対照群よりも向上させること、すなわち患者の希望に集中的に焦点を当て、目標を患者と共同で立案し、実施する訪問OTは、通常の訪問OTよりも、社会的機能を改善させることを新しい知見として示した。

よって、学位申請者の真下 いずみ氏は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。
Effects of Home-visit Occupational Therapy Using a Management Tool for Daily Life Performance on Severe Mental Illness: A Multicenter Randomized Controlled Trial.
IZUMI MASHIMO, KAYANO YOTSUMOTO, HIROKAZU FUJIMOTO, and TAKESHI HASHIMOTO. Kobe J. Med. Sci., Vol. 66, No. 4, pp. E119-E128, 2020.